

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04_jyouhou/0403seiku/seiku.html

第 2 報
千葉県農林水産部
平成 22 年 6 月 16 日

- 早生の幼穂を確認して、穂肥を遅れずに施用しよう
- 中干し後は湛水管理で品質向上

【 生育概況 】

4月第5半旬までの低温や少ない日照時間のために初期の生育は停滞しましたが、その後の天候の回復によって、莖数は十分に確保されました。既に最高分けつ期を過ぎつつあります。

6月16日現在の県全体の水稻の生育進度はやや遅～並です。

早生は幼穂形成期を迎えつつあります。適期穂肥のために幼穂の確認をしましょう。

表 1 品種別の生育状況（6月16日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉齢	草丈	莖数	葉色
ふさおとめ	4月20日頃	やや遅	やや低	並	やや淡
ふさこがね	4月20日頃	並	やや低	並～やや多	やや淡
コシヒカリ	4月20日頃	やや遅	やや低	並	やや淡
	5月1日頃	並	並	やや多	やや淡

※ 平年値は過去5か年(2005～2009年)平均値。ただし「ふさこがね」は過去4か年(2006～2009年)の平均値。

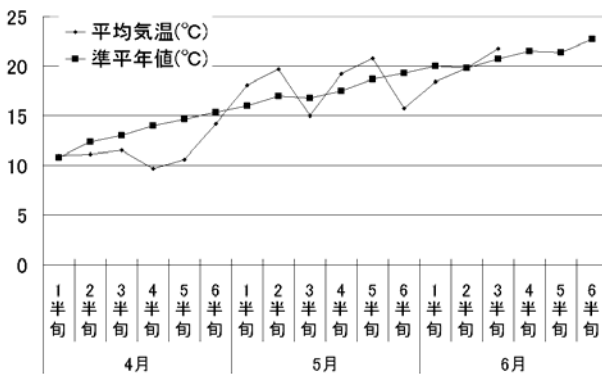


図 1 日平均気温の推移（佐倉市）

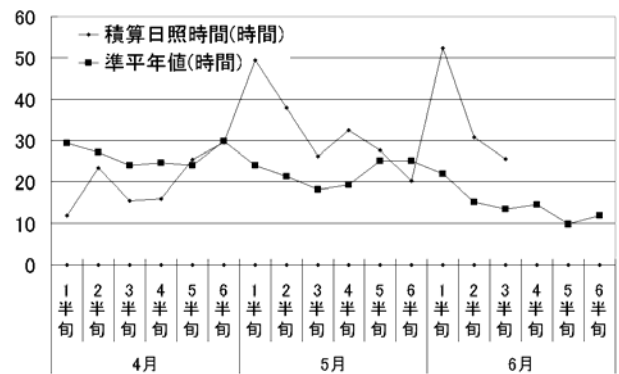


図 2 日照時間の推移（佐倉市）

表 2 品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測（月日）				冷害危険期 予測(月日)
		県北	九十九里	内湾	県南	
ふさおとめ	4月20日	6月20日	6月21日	6月22日	6月21日	6月30日
ふさこがね	4月20日	6月20日	6月21日	6月23日	6月21日	6月30日
コシヒカリ	4月20日	6月28日	6月29日	6月30日	6月29日	7月8日
	5月1日	7月3日	7月3日	7月4日	7月4日	7月13日

※ 「ふさおとめ」「コシヒカリ」は日平均気温に基づく発育段階予測結果、「ふさこがね」は幼穂長の実測値及び葉齢等からの推定値による。

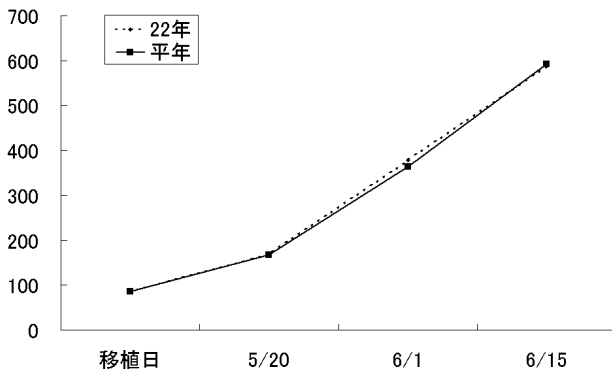


図 3 茎数の推移 (ふさおとめ 4/20 植え)

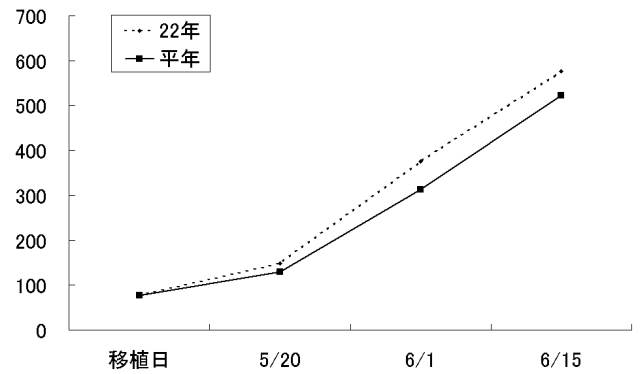


図 5 茎数の推移 (コシヒカリ 4/20 植え)

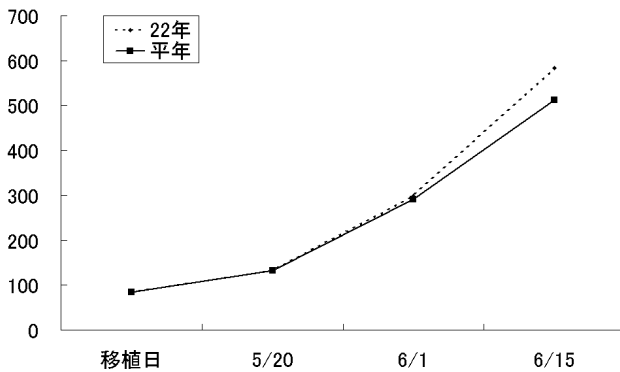


図 4 茎数の推移 (ふさこがね 4/20 植え)

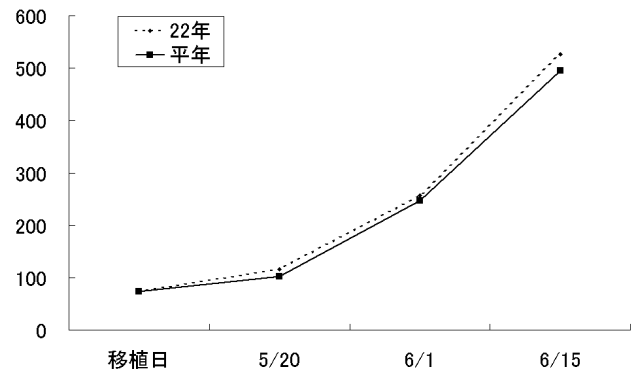


図 6 茎数の推移 (コシヒカリ 5/1 植え)

【 これからの管理のポイント 】

■ 水管理

○ 中干しから出穂後までの水管理

自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために、基本的な中干しの他に③を行うことが有効です。「安心・安全」な米作りのために対策を励行しましょう。

※米のカドミウム残留基準が 1.0ppm から 0.4ppm に引下げられます。

- ① 中干しは強過ぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂 3 週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前 3 週間・出穂後 2 週間は湛水管理 (幼穂を確認したら湛水開始)
- ④ 出穂 2 週間後から出穂 25 日後までは間断かんがい

○ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温 20℃以下の低温持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水 (保温) しましょう。

表 3 低温時湛水深の目安

幼穂形成期 (出穂 25 日前) から冷害危険期 (出穂 15~10 日前)	湛水深 10cm 程度
冷害危険期 (出穂 15~10 日前)	湛水深 20cm 程度

■ 早生の穂肥

○ 穂肥適期は幼穂長 10mm のとき

■ 穂肥の適期を判断するために、幼穂を確認しましょう。

幼穂形成期は幼穂長 1mm(出穂 25 日前)の株が全体の 8 割に達した時点です。ここから数日に出穂 3 週間前(湛水管理開始期)になります。

穂肥の適期は幼穂長 10mm (出穂 18 日前) のときです。

ほ場の中で中庸な生育をしている連続した 5 株程度を選んで、各株の最長茎の幼穂長を測定します。1mm を超えた株の数が測定した株数の 8 割に達した日が幼穂形成期です。

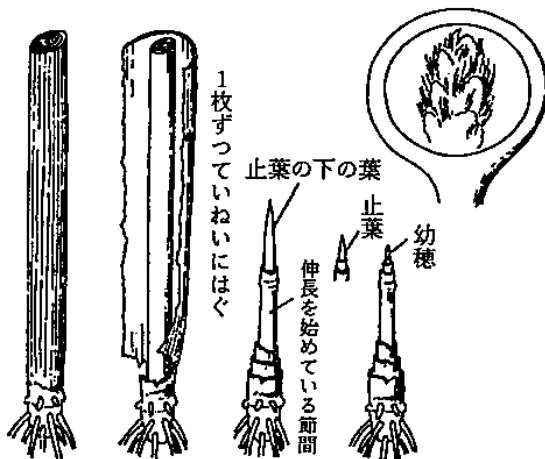


図7 幼穂の確認方法

(出典：農文協 農業技術体系作物編 P134)

▽ふさおとめ

4 月 20 日植えの「ふさおとめ」は 6 月 20 日頃から幼穂形成期を迎えるので、穂肥適期は 6 月 27 日頃からです。施肥量は、砂質土・壤質土では窒素・加里を 10a 当たり分量で各 3kg。房総南部の粘質土では 1~2kg が目安です。

表 4 「ふさおとめ」穂肥施用の目安(幼穂形成期)

品種	草丈 cm	穂肥施用目標茎数			葉色(カラー スケール値)
		砂質	壤質	粘質	
ふさおとめ	55 以下	570~620 本/m ² (32~34 本/株)		520~570 本/m ² (29~32 本/株)	4.0

※ 茎数の () 内は 30cm×18cm で植え付けされた時の 1 株平均茎数

■ 穂肥の遅れは品質低下の要因

図8は「ふさおとめ」玄米の粒厚別粗タンパク含量について、適期の穂肥と 7 日遅れの穂肥とで比較したものです。穂肥の遅れが玄米タンパク含量を高め、食味に悪影響を及ぼす可能性を示しています。

穂肥の適期施用は、収量確保だけでなく、米の品質向上の鍵を握る技術でもあります。必ず自分で幼穂長を確認しましょう。

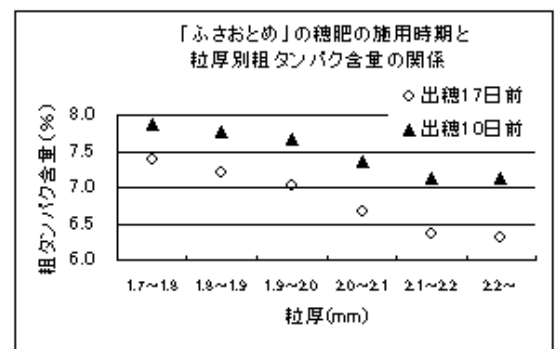


図8 穂肥施用時期と玄米の粒厚別粗タンパク含量の関係

▽ふさがね

4月20日植えの「ふさがね」は6月20日頃から幼穂形成期を迎えるので、穂肥適期は6月27日頃からです。施肥量は、窒素・加里を10a当たり成分量で各3kg。

表5 「ふさがね」穂肥施用の目安（幼穂形成期）

品種	草丈 cm	穂肥施用目標茎数	葉色（カラー スケール値）
ふさがね	60～65 以下	450～550 (25～30 本/株)	5.0

※ 茎数の（ ）内は30cm×18cmで植え付けされた時の1株平均茎数

▽コシヒカリ

「コシヒカリ」の幼穂形成期は6月下旬以降と想定されるので、穂肥施用については第3報（6月24日発行予定）で記載します。

■ いもち病防除

梅雨期はいもち病の発生しやすい条件になりやすく、注意が必要です。平均気温20～25℃で曇雨天の続く場合、葉いもちの発生が懸念されます。発生が見られたら早期に薬剤防除しましょう。

薬剤は5ページの表6を参照してください。

■ 出穂2週間前までの雑草防除

出穂直前の畦畔雑草はカメムシ類が水田に侵入するのを助長します。出穂2週間前頃までに畦畔雑草を刈り取りましょう。



図9 ふさがね（4月20日植え）
6月16日（千葉市緑区刈田子）の様子

表 6 いもち病の主な防除薬剤

作用性	薬剤名	使用時期／使用回数	使用時期／使用回数の注記	10a 当たり散布量
予防	オリゼメート粒剤	右記／2回	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 3～4 週間前（ただし、収穫 14 日前まで）に散布	3～4kg
	キタジン P 粒剤	右記／2回	葉いもちには初発 7 日前から初発時に、穂いもちには出穂 20～7 日前に散布	3～5kg
	コラトップ粒剤 5	右記／2回	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30～5 日前に散布	3～4kg
	// ジャンボ	右記／2回	葉いもちには初発 20 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30～5 日前に散布	10～13 個
	ブイゲット粒剤	収穫 45 日前まで／2回	葉いもちには初発 20～7 日前に湛水散布	3kg
	フジワン粒剤	収穫 30 日前まで／1回	葉いもちには初発 10～7 日前に、穂いもちには出穂 30～10 日前に散布	3～5kg
	ラブサイド粉剤 DL	収穫 7 日前まで／右記	6 回以内（ただし、穂ばらみ期以降は 4 回以内）	3～4kg
予防・治療	イモチエース粒剤	収穫 35 日前まで／1回		3kg
	カスラブサイド粉剤 DL	穂揃期まで／2回		3～4kg
	ヒノザン 粉剤 25DL	収穫 21 日前まで／3回		3～4kg
	// 乳剤 30 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／3回		下注参照
	ブラシン 粉剤 DL	収穫 21 日前まで／2回		3～4kg
	// フロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／2回		下注参照
治療	カスミン 粉剤 DL	穂揃期まで／2回		3～4kg
	// 液剤 1,000 倍液	穂揃期まで／2回		下注参照

注：乳剤、フロアブル剤、液剤の 10a 当たりの散布量の目安は、次のとおり。

本田初～中期：100～120 リットル、穂ばらみ期・出穂期：120～150 リットル